

# 四季の風だより

稲刈り号 平成 24 年 10 月 15 日

田中せいこ社会保険労務士事務所

今月号のお話し

○蔵の図書館

○初ボランティア

○ポクポクポク

## ♪あ～きの夕日に照る山もみじい♪

と、歌にもありますように、秋の夕日の美しさは格別ですね。たわわに実った稲穂が金色の穂を垂れ、青空には翳雲が浮かび、柿の木は朱色の実が鈴なりになっています。

実りの季節でありながら、ふと物悲しくもあり、人恋しい季節。今回の「四季の風だより」は、秋をテーマにお届けします。



## 蔵の図書館



秋と言えば、やはり最初に浮かぶのは「読書の秋」でしょうか。私も学生時代はムキになって、手当たりしだい小説を読んでいたが、最近では本を開くより、圧倒的にパソコンを開いてる時間の方が多くなってしまいました。

今、一番してみたい事は、どこか山間の静かな場所で、どっぷりと読書に浸りたいということです。先日、そんな私の夢をかなえてくれる場所に出会いました。

それは、新城市の山吉田にある「café 爾今（にこん）」というお店です。古民家をそのまま café として使っているのも、まるで実家に帰って来たような、懐かしい温もりがいっぱいです。お店の前を通っても、お店と気付かずに通り過ぎてしまいそうな、素朴で café であることの主張を全くしてこない山里の古民家です。

ここに来た理由は、ここの蔵を図書館にするという話を聞いたからです。我が家には、大きくて分厚くて超重たい本が山積み

になっていて、その本を何処かに片付けたいと長年悩んでいました。それらの本は、亡くなった父が好きで買い集めた本で、古寺や仏像の写真入りの本ばかりです。

とりあえず、一番大きな本を手にとると、重さはゆうに 2 kg はあると思われます。裏表紙を見ると、2 万 8 千円と記されています。1 冊がその値段ですから、全 7 巻でいくらになるか、とっさに暗算してしまった私です。

大きくて分厚くて超重たい、見るからに大層立派な本は、その立派さゆえに家に置いておくことはできないのです。私は悲しい気持ちになりながらも、インターネットで本の現在の価値を調べずにはいられませんでした。もしかしたら、プレミアが付いてもっと高くなっているのではないかと...

1 冊 2 万 8 千円の本は、古本で全巻 7 冊 1 万 5 千円で売られていました。私は少しホッとして、全巻 7 冊と、その他の本 20 冊を車に積んで、café 爾今に届けました。

私が子供の頃、大きくて分厚くて超重たい、百科事典は私の宝物でした。百科事典の独特の匂いを嗅ぎながらページをめくると、自分が賢くなっていくような気がして、ワクワクしたものです。もう随分昔に、百科事典は処分されてしまいました...



爾今

## 初ボランティア

先日、村の民生委員さんが、毎年秋の恒例となっている「赤い羽根」の共同募金を集めに見えました。

私の事務所の経営理念には「私たちは、環境への配慮、地域活動やボランティアを通して地域に貢献することで社会と調和します」という一節がありますので、募金や寄付は少額ではあるものの積極的におこなっています。それで、経営理念を果たしているような気になっていました。でも、心の底では、お金を出すだけではなく、時間と労力を費やすべきと思いながら、忙しさにかまけて、後回しにしている自分に気づいていました。

そんな中、私の事務所に一人の女性がたずねて来られました。その女性が理事長を務めるNPO法人オアシスG・J・Bの活動に対して、豊橋市の市民協働推進補助金の申請をしたいとのご相談でした。

オアシスG・J・Bの活動は、岩田団地にお住まいの高齢者(120人以上)の方に、無料でお菓子とお茶をふるまい、ビンゴゲームや健康体操、カラオケなどを通して、情報交換の場を設け、健康維持や孤独死の防止を図るといった活動でした。

私は今まで、厚生労働省から支給される助成金の申請は数多く手がけてきましたが、豊橋市の補助金の申請の経験はありません。暑い中、理事長は何度も事務所に足を運ばれ、一緒に書類を作成しました。そしてプレゼンテーションで合格し、補助金を受け取れる運びとなりました。

地域のため、全て手弁当で走り回る理事長の姿に、すっかり感動してしまった私は、これぞ経営理念を果たすチャンスと思い、オアシスG・J・Bのスタッフに加えてい

ただくことで、ボランティア活動として、申請をさせていただくことにしました。

自己満足ではありますが、理念達成に少し近づけたかなと思っています。その機会をいただき、ありがとうございました。



理事長小池宏子さん オアシスG・J・Bの活動



## ポクポクポク



秋のお彼岸も終わり、朝夕は肌寒く感じられるようになってきました。

我が家のおばあちゃんが生きている時は、お彼岸になると「ポクポクポク」と、柔らかく響く木魚の音が、隣のおばあちゃんの家から聞こえてきたものです。

木魚って、何で木魚というのでしょうか？ちょっと調べてみたところ、木魚には眠気覚ましの意味があり、木魚が魚を模しているのは、眠るときも目を閉じない魚がかつて眠らないものだと思われていたことに由来するからだそうです。

とは言え、木魚の単調なリズムと柔らかい響きを聞くと、気持ちが落ち着いて眠たくなるんですね。

夏からずっと軒下に吊るしてある簾(すだれ)。簾は夏の季語ですが、秋になってもまだ仕舞われていない秋簾は秋の季語です。

では、ここで一句です。

## お隣の 木魚のリズム 秋簾

最後までお読みいただき、ありがとうございました。